

# 戦前の政治家の個人文書を使う—調査の予備知識

葦名 ふみ

\* 本稿は「政治家の個人文書を使う」の第1部にあたる。

## 【目次】

- はじめに
- I 調査に関係する政治家の文書を探す(1)
    - 憲政資料を中心に—
    - 1. 近代の政治家の個人文書を探す
    - 2. 国立国会図書館憲政資料室収蔵の政治家の個人文書を探す
    - 3. 憲政資料をテーマ別に探す
      - 3-1 テーマ別に探す
      - 3-2 テーマ別の資料紹介記事やサイト
  - II 調査に関係する政治家の文書を探す(2)
    - 資料の類型—
    - 1. 資料の類型
    - 2. 形態、記述の方法
  - III 書簡を読解する
    - 近代のくずし字の書簡を例に—
    - 1. 書簡の例から
    - 2. 書簡の構成
    - 3. 切手・葉書・消印の情報
    - 4. くずし字の辞書・Web 版講座
  - IV 資料の背景の調査(1)
    - 政治家・官僚・軍人の役職の調査—
    - 1. 一次史料の搜索・解読のための役職の調査
  - 2. 役職調査の基本的なツール
  - 3. 帝国議会の議員
    - 3-1 貴族院議員、衆議院議員
    - 3-2 帝国議会議録検索システムを議員の検索に使う
    - 3-3 議員の会派
  - 4. 戦前の官僚
    - 4-1 基本的な考え方
    - 4-2 職員録
    - 4-3 官報
    - 4-4 国立公文書館デジタルアーカイブで検索する
    - 4-5 組織や主要ポストの変遷
    - 4-6 省別その他
  - 5. 軍人
  - 6. 手掛かりが得られない場合の調査法
- V 資料の背景の調査(2)
  - 政治家の文書と立法過程—
  - 1. 政治家の文書と法令
  - 2. 実際の目録から—『井上馨関係文書目録』より—
  - 3. 法令の本文を探す
  - 4. 帝国議会の資料
- おわりに

## はじめに

本稿は、特に近代の歴史的な調査をする人向けに、戦前の政治家旧蔵の個人文書を使う際の予備知識や調査手法を紹介するものである。

一般に、未刊行資料を用いる際には、その素材となる一次史料を探す、探した資料を読み資料の性格を掴む、再度その資料の背景事情を調べ直す、といっ

た行きつ戻りつのプロセスが生じる。また、本稿で扱う近代の政治家の個人文書は、その形態、様式、内容、印刷の技法などがまちまちである上に、作成主体の社会的階層が広い。その多様性のために、主題に関する知識とは別に、資料の搜索と読解の予備知識を要する。

本稿は、日本資料専門家欧州協会2014年年次大会における筆者の報告の配布資料を改訂したものである<sup>1</sup>。戦前の政治家の個人文書を初めて使おうとする海外の利用者や、あるいは利用を支援する司書等を想定して英文で作成したものであるが、国内の利用者にも関わる内容であることから、本誌には日本語版と英語版の両方を掲載した。対象としては、筆者の所属機関である国立国会図書館憲政資料室収蔵の政治家の文書（憲政資料）を中心とし、時期は明治期から昭和戦前期に限定する。また、憲政資料室では議員だけでなく官僚や軍人も広義の政治家ととらえ、資料収集を行っていることから、本稿でも政治家をこの意で用いた。

参考図書や調査法を紹介した有用な文献やサイトは既に多数存在する<sup>2</sup>。予備的な調査手法やツールを紹介する本稿は、こうした既存の文献やサイトと重なるところもあるが、特に政治家の文書を探し、読解し、背景を調査するための実際的な入り口に特化し、調査のハードルを下げることに主眼を置いてコンパクトな紹介を志した<sup>3</sup>。この意味で本稿は戦前の政治家の文書に関わる分野を幅広く取り扱った解題付の書誌というよりも、むしろ憲政資料を使い始めるための予備調査の発想の糸口を紹介しようとするものである。

以下は5部構成とする。Iでは、憲政資料室等に収蔵される政治家の個人文

<sup>1</sup> 第25回日本資料専門家欧州協会（European Association of Japanese Resource Specialists Conference）年次大会（於 ルーヴェン・カトリック大学、2014年9月19日）、近代の文書を使う—調査の予備知識とくずし字の読解（“How to use original documents of modern Japan: background knowledge for historical research, methods of decipherment of *kuzushiji*”）。

<sup>2</sup> Robert E. Ward., *A guide to Japanese reference and research materials in the field of political science*, University of Michigan Press, 1950.（増補版にRobert E. Ward and Hajime Watanabe., *Japanese political science: a guide to Japanese reference and research materials*, rev. ed. University of Michigan Press, 1961.）

；国際文化会館図書室編『日本研究のための参考図書』改訂版。A guide to reference books for Japanese studies, 国際文化会館図書室, 1997.

；Noriko Asato(ed). *Handbook for Asian studies specialists*, Libraries Unlimited, [2013]

；国立国会図書館「参考図書紹介」（リサーチ・ナビ）<http://rnavi.ndl.go.jp/sanko/> 歴史的研究に役立つ形で既存の辞典、研究史、資料集や辞典類を手広く紹介した有用な文献としては、中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門』増補版 新装版, 東京大学出版会, 2012.（初版1977, 増補版1983.）

；佐藤能丸編『文獻リサーチ日本近現代史』芙蓉書房出版, 2000.

；土田宏成執筆「近代の史料」五味文彦・杉森哲也編著『日本史史料論』放送大学教育振興会, NHK出版（発売）, 2015. pp.209-278.

；Sven Saaler氏のサイト“JapaneseHistory.de” [http://japanesehistory.de/wordpress/?page\\_id=342](http://japanesehistory.de/wordpress/?page_id=342)

<sup>3</sup> 本稿で取り上げるサイトの最終アクセス日は2016年9月30日である。

書の探し方を紹介し、Ⅱでは、資料の種類や近代の印刷技法を取り上げ、Ⅲではくずし字で記された近代の書簡の読解に触れる。Ⅳでは典型的な背景調査のひとつである政治家・官僚・軍人の役職の調べ方を取り上げる。文書の位置づけや意味を読み解くには、その文書が記された背景や事情を知る必要があり、関係者の役職も基本的な情報であるからである。Ⅴでは政治家の文書を立法過程と関連付けて使う方法として、憲政資料の実際の目録の例を紹介する。

## I 調査に関係する政治家の文書を探す (1) 一憲政資料を中心に一

### 1. 近代の政治家の個人文書を探す

#### ■政治家の個人文書の調査

関心のある特定の政治家に文書資料があるか。これを調査するのに便利な文献・サイトとして次のものがある。

\*伊藤隆・季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典』全4巻, 吉川弘文館, 2004-2011.

近現代日本史上の重要人物について、書類・日記・書簡などの未刊行資料の所在と公開状況、出版状況を解説している。特定の人物を研究するには当該人物の箇所は必読。続編として「近現代史の人物史料情報」が『日本歴史』誌上において連載中(771号(2012.8)～)。

\*『旧華族家史料所在調査報告書』全5巻, 学習院大学史料館, 1993.

旧華族1,011家を対象に調査し、書類・日記・書簡などの所蔵機関、資料名、数量、出典目録などを紹介している。

\*[ウェブサイト] 国文学研究資料館「史料情報共有化データベース」

<http://base1.nijl.ac.jp/~isad/>

全国各地の歴史資料保存機関から提供された情報をもととするもので、資料群(文書)の名前でキーワード検索が行える。

\*[ウェブサイト]「近代日本史料研究会ウェブサイト」

<http://kins.jp/seika.html>

同会の科学研究費補助金の成果報告書もPDFファイルで掲載されている。史料に詳しい研究者・機関職員たちへのインタビューの記録も全文検索ができるため、調査したいテーマに関わる先達の発言が見つかれば調査が効率的になる。

\*『日記書簡集解題目録』第2巻(政治家・思想家), 日外アソシエーツ編集部編・刊, 紀伊国屋書店, 1998.

1997年までに刊行された政治家・思想家968人の日記・書簡集と政府・自治体・政党など25機関の日誌・書簡集についての書誌事項・解題を収録。

## ■政治家の個人文書の調査上も参考になる近現代の史料論

- \* 中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門』増補版 新装版, 東京大学出版会, 2012. (初版1977, 増補版1983.)
- \* 加藤周一ほか編『近代史料解説・総目次・索引』岩波書店, 1992.
- \* 松尾尊兌「近現代史料論」朝尾直弘 ほか編『岩波講座日本通史』岩波書店, 1995, pp.97-128.
- \* 佐々木隆「近代文書と政治史研究」石上英一編『歴史と素材』(日本の時代史30), 吉川弘文館, 2004, pp.138-175.
- \* 御厨貴編・著『近現代日本を史料で読む』中央公論新社, 2011.

## ■上記以外の探し方

NDL-OPAC、国立国会図書館デジタルコレクション、皓星社の雑誌記事データベースなどで、テーマに関連した記事などを執筆している人物を探し、それを手掛かりに文書を探していく方法もありうる。

- \* [ウェブサイト] 国立国会図書館「NDL-OPAC」  
<http://ndlopac.ndl.go.jp/> (日本語版)  
<https://ndlopac.ndl.go.jp/eng/> (英語版)  
国立国会図書館所蔵資料の書誌が検索できる。
- \* [ウェブサイト] 「国立国会図書館デジタルコレクション」  
<http://dl.ndl.go.jp/> (日本語版)  
[http://dl.ndl.go.jp/?\\_lang=en](http://dl.ndl.go.jp/?_lang=en) (英語版)  
国立国会図書館所蔵資料のデジタル画像の検索・閲覧ができる。
- \* 「皓星社雑誌記事索引集成データベース」(ごっさくプラス)(契約制データベース)

## 2. 国立国会図書館憲政資料室収蔵の政治家の個人文書を探す

### ■国立国会図書館憲政資料室

日本近現代の政治家の個人文書を収蔵する機関としては、最大級の規模を持つ。所蔵資料は次の3種類から構成される。

- ・ 憲政資料 日本近現代の政治家・軍人・官僚などの個人が所蔵していた資料
- ・ 日本占領関係資料 第二次世界大戦後の日本占領に関する米国の公文書の複製等
- ・ 日系移民関係資料 中南米諸国、ハワイ等の日系移民関係資料等

### ■憲政資料

本稿の紹介の対象である憲政資料は、幕末維新时期から現代にいたるまでの日

本近現代の政治家・軍人・官僚などの個人が所蔵していた資料や政党の旧蔵資料など、広く政治に関わる個人や団体の資料である（約500資料群、約37万点）。具体的には、三条実美（太政大臣）、伊藤博文（初代首相）、石橋湛山（評論家・首相）、芦田均（外交官・首相）、新自由クラブ（政党）などで、旧蔵者は多様である。

### ■目的の文書が分かっている場合

次のサイトから調査したい資料群の概要を確認すると良い。「憲政資料室の所蔵資料」では、憲政資料の全文書の旧蔵者の履歴、資料群の主な内容、関連する資料群や資料集などを紹介している。目録のPDFファイルへのリンクも設けている。

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「憲政資料室の所蔵資料」（リサーチ・ナビ）  
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「憲政資料<旧蔵者> 五十音順索引」（リサーチ・ナビ）  
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kensei-kyuzosha.php>

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「[憲政資料]の検索ガイド」（リサーチ・ナビ）  
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kenseiguide.php>

### ■目録本文の検索

憲政資料の大半の目録は上記のサイトで参照可能ではあるが、憲政資料全体を対象とする目録検索システムは整っていない。なお、刊行された目録（22冊）については、「目次データベース」で横断検索（詳細検索の「分類」の「憲政資料細目」にチェックを付ける）ができ、憲政資料に密接な関係がある資料集の目次も検索できる。

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「目次データベース」（リサーチ・ナビ）  
<https://rnavi.ndl.go.jp/mokuji/>

### ■当時の用語を探す

私文書であれ、公文書であれ、当時の用語でキーワード検索しなければ史料が存在してもヒットしないなど、データベースでは紙媒体の目録を確認するときにはなかった見逃しも起きやすい。例えば、訴訟のことを明治前期には詞訟と呼ぶことがある。こうした当時の用語を現代人が思いつくことは難しい。当時の用語を知るにはどうするか。分野によって、様々なアプローチがあるが、辞書の他にも、一例として、次のようなツールもある。特に地名については、

難読のものもあるので、キーワード検索の際に注意が必要である。

- \* 「外国名の漢字表記および略語表記例一覧」『宛字外来語辞典』 柏書房, 1997, p.299.
- \* 三木理史『近・現代交通史調査ハンドブック』 古今書院, 2004.  
交通史の調査のためのハンドブックであると共に、近現代の文書類の検索の際のキーワードの選び方についても示唆に富む。
- \* [ウェブサイト] 国立国会図書館「日本法令索引〔明治前期編〕」「ヨミガナ辞書」  
<http://dajokan.ndl.go.jp/SearchSys/documents/yomigana/yomigana.pdf>  
明治前半期の用語についてPDFファイル内で検索ができる。『法令全書（自慶応3年10月至明治17年12月イロハ索引）』を基にデータベース作成過程で調査した難読語等を加えて作成。319頁に及ぶ。
- \* 「ヨミダス歴史館」（読売新聞社）等の各社の契約制新聞データベースには現代語のキーワードが付与されており、現代語で入力しても当時の資料に辿りつけることがある（データベース以外にも『明治ニュース事典』、『大正ニュース事典』、『昭和ニュース事典』の総索引（毎日コミュニケーションズ, 1986, 1989, 1994）も有用である）。

### 3. 憲政資料をテーマ別に探す

#### 3-1 テーマ別に探す

自分のテーマに対して憲政資料の誰の文書を見たらよいか想像できないとき、いくつかの方法がある。

- ①既存の文献の引用から探す
- ②国立国会図書館「リサーチ・ナビ」上の資料紹介（「憲政資料室の所蔵資料」）から探す
- ③調べたいテーマに関係する「役職」についている人を探す

（例）明治時代の道路政策について調べたい

→内務省の業務について調べる→土木局が担当→明治時代の内務省土木局長は誰か→リサーチ・ナビで「内務省土木局長 and 憲政資料」で検索→都筑馨六関係文書、仲小路廉関係文書、新居善太郎関係文書、小橋一太関係文書、三島通庸関係文書がヒット→このうち明治期に土木局長に就任しているのは、三島通庸、都筑馨六、仲小路廉→これらの文書の目録で、関係のある資料がないか探す

#### 3-2 テーマ別の資料紹介記事やサイト

テーマごとの資料紹介や文献から探す方法もある。

## ■主題別一覧

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「憲政資料 主要な資料群の主題別一覧」

[https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/kensei\\_shudaibetu\\_ichiran.pdf](https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/kensei_shudaibetu_ichiran.pdf)

憲法、外交、陸海軍、国家総動員、朝鮮などの分類に基づいて憲政資料を分類。

## ■『国立国会図書館月報』の過去の記事

資料の所蔵状況もかなり変わっているが、当時の研究史を知る意味でも有用である。

タイトル	ページ数	号(年月日)	執筆者
憲政資料ノート(一) 憲政資料室の沿革	pp.17-18.	27 (1963.6.)	藤井貞文
憲政資料ノート(二) 当館所蔵文書概要	pp.17-20.	28 (1963.7.)	執筆者記述なし
憲政資料ノート(三) 幕末維新期の史料	pp.23-24.	29 (1963.8.)	執筆者記述なし
憲政資料ノート(四) 明治前期の史料	pp.25-26.	30 (1963.9.)	執筆者記述なし
憲政資料ノート(五) 自由民権運動に関する資料	pp.15-16.	31 (1963.10.)	原口敬明
憲政資料ノート(六) 明治憲法制定に関する資料	pp.29-30.	33 (1963.12.)	稲田正次
憲政資料ノート(七) 外交史関係の史料	pp.19-20.	34 (1964.1.)	山辺健太郎
憲政資料ノート(八) 明治後期の政治資料	pp.21-22.	36 (1964.3.)	宇野俊一
憲政資料ノート(九) 教育関係資料	pp.17-18.	38 (1964.5.)	大久保利謙
憲政資料ノート(十) 座談会 憲政資料室の資料をめぐって	pp.21-25.	42 (1964.9.)	座談会(宇野俊一, 大山梓, 坂井雄吉, 西田長寿, 山辺健太郎, 藤井貞文, 田山茂, 大久保利謙)

## ■憲政資料中の朝鮮、台湾、中国東北部関係資料

\* 堀内寛雄「憲政資料中の戦前期朝鮮・台湾・中国東北部関係資料」『参考書誌研究』69, 2008.10, pp.1-24.

\* 同「憲政資料中の戦前期朝鮮・台湾・中国東北部関係資料(続)」『参考書誌研究』78, 2016.12, pp.3-15.

## ■憲政資料中の近代女性史関係資料

\* 山口美代子「近代女性史料探訪 国立国会図書館所蔵憲政資料の中から」『参考書誌研究』40, 1991.11, pp.10-18.

## ■憲政資料中の土木史関係資料

\* 土田宏成「国立国会図書館憲政資料室で閲覧できる土木史関係資料について」『土木史研究 講演集』31, 2011, pp.111-114.

\* 同「同(その2)」『土木史研究 講演集』33, 2013, pp.251-255.

\* 同「同(その3)」『土木史研究 講演集』34, 2014, pp.169-172.

\* 同「同(その4)」『土木史研究 講演集』35, 2015, pp.115-120.

\* 同「同(その5)」『土木史研究 講演集』36, 2016, pp.293-296.



### ■憲政資料中のパンフレット

- \*[ウェブサイト] 国立国会図書館「憲政資料の資料群中の図書・パンフレット一覧（2008.3）」  
[https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/kensei\\_tosho.pdf](https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/kensei_tosho.pdf)

### ■憲政資料中の談話・オーラル・ヒストリー関係資料

- \*藤田壮介「憲政資料室所蔵のオーラル・ヒストリー関連資料」『参考書誌研究』78, 2016.12, pp.16-36.

### ■憲政資料中の写真資料

- \*葦名ふみ「アーカイブズとしての写真資料 国立国会図書館憲政資料室の事例から」『国文学研究資料館紀要』アーカイブズ研究篇4, 2008.1, pp.39-81.

### ■近代の日記を幅広く紹介した文献

- \*佐々木隆「日記」中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門』増補版 新装版 東京大学出版会, 2012. 初版1977, 増補版1983, pp.287-302.
- \*「日本近代を読む日記大全」歴史編『月刊asahi』5（1）（1993.1/2合併号）特集記事 pp.19-107.
- \*『日本「日記」総覧—「日記」から日本人の生活と歴史を探る!』新人物往来社, 1994.
- \*佐々木隆「近代文書と政治史研究」石上英一編『歴史と素材』（日本の時代史30）吉川弘文館, 2004, pp.138-175.
- \*『日記に読む近代日本』1-5 吉川弘文館, 2011-2012. 全5巻  
大久保利通、田中正造、渋沢栄一、吉野作造などの多様な日記を時代状況と関連づけながら紹介している。
- \*奈良岡聰智「日記が語る近代史」倉本一宏編『日記で読む日本史』1（日本人にとって日記とは何か）, 臨川書店, 2016, pp.129-149.

### ■特定のテーマに関わるインターネット上の電子展示会

- \*[ウェブサイト] 国立国会図書館「史料にみる日本の近代—開国から戦後政治までの軌跡—」  
<http://ndl.go.jp/modern/index.html>（日本語版）  
<http://www.ndl.go.jp/modern/e/index.html>（英語版）  
当館の憲政資料室が所蔵する手稿や書簡を中心に、近現代の日本の政治史に関わる代表的な史料の画像を掲載し、解説を加えている。
- \*[ウェブサイト] 国立国会図書館「日本国憲法の誕生」



<http://www.ndl.go.jp/constitution/>（日本語版）

<http://www.ndl.go.jp/constitution/e/index.html>（英語版）

日本国憲法の制定過程に関する貴重な資料画像を掲載し、解説を加えている。

## II 調査に係る政治家の文書を探す（2）—資料の種類—

### 1. 資料の種類

#### ■憲政資料の種類

出所・旧蔵者ごとに文書を分類し、搬入時の状態、原秩序、旧蔵者の履歴、内容、形態など様々な要素を考慮して目録を編成している。例えば次のような種類の資料がある。

書簡、日記、電報、辞令、勲記、履歴資料、執務書類、写真、写真アルバム、記事、記事のスクラップ、小冊子、図書、雑誌など

\*目録の編成について有用な文献

加藤聖文「近現代個人文書の特性と編成記述」国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』思文閣出版, 2014, pp.181-199.

#### ■歴史史料の種類

\*[ウェブサイト] 佐々木隆「歴史史料とは何か」(国立国会図書館「[電子展示会] 史料にみる日本の近代 開国から戦後政治までの軌跡」)

<http://www.ndl.go.jp/modern/guidance/whats01.html>（日本語版）

<http://www.ndl.go.jp/modern/e/guidance/whats01.html>（英語版）

日記、書簡、公文書といった史料や字体について資料画像を用いて解説している。

### 2. 形態、記述の方法

#### ■資料の形態や状態

形態や状態は様々な情報を伝える。

- ・卷子本、折本仕立て
- ・(書簡) 用紙、葉書、封緘葉書、絵葉書、封筒の有無など
- ・(書簡・書類) 用紙から役職や状況が推定できる。(例) ホテルの便箋
- ・(日記) 手帳、メモ帖、当用日記、ノートなどの様々な形態がある。

#### ■伝達手段

- ・特定の条件があるか（軍事郵便、検閲済など）
- ・郵便か使送か

## ■日本近代の様々な記述や印刷の方法

- ・墨書、鉛筆、ペン、絵具、タイプのほかに印刷の方法としては、木版、蒟蒻版、活版、謄写（手書、タイプ）、青焼、カーボン（手書、タイプ）など。近年は電子式複写、FAXなどもある。
- ・大体の印刷部数や年代が技法から推測できることがある。
- \* 本来は資料保存対策のために作成されたマニュアルであるが、印刷技法の解説書として  
[ウェブサイト] 元興寺文化財研究所「国立公文書館所蔵資料保存対策マニュアル」(2002.3)  
[http://www.archives.go.jp/law/pdf/hourei3\\_09.pdf](http://www.archives.go.jp/law/pdf/hourei3_09.pdf)
- \* 印刷技法に力点を置いて近代文書の様式を分析した論文  
平野正裕「近代文書整理法序説—文書の「成立様式」と「集積文書」について」『横浜開港資料館紀要』12, 1994.3, pp.45-64.

## Ⅲ 書簡を読解する—近代のくずし字の書簡を例に一

### 1. 書簡の例から

近代の書簡の多くはくずし字で記される。ときには、当事者（二人）の間でしか分からない秘密が記載され、それゆえに意味が分かりにくいときもあるが、その分、機微のある代えがたい情報が含まれていることもある。

次の書簡は、公文書の中にあるくずし字で記された書簡の一例である。

(翻刻)	拜啓 陳ハ先ニ御話申上候佛 白両国代議院書記官長叙 勲ノ義ニ付別紙上申書差 出候間御授与相成候様何卒 御盡力被成下度御願申上候 右之件ニ付林田衆議院書記 官長へ聞合セ候處叙勲上 申者無之由ニ候、又大蔵省 技師ノ方ニハ有之趣ニテ右ハ 追テ上申致ス筈トノ事ニ有 之候間、御含込申上候 敬具	六月一日	太田峰三郎	柴田内閣書記官長殿
------	--	------	-------	-----------

【図1】「仏国下院書記官長勲三等ユーゼーヌ、ピエール叙勲ノ件」中の書簡

相取 陳先を以て話中にて佛  
 白友不代 誠實書記官長 叙  
 勲ノ義ニ付 叙勲ノ旨書差  
 出取 旨以て換文取附、標何支  
 以書力ニ感上致取中ニ  
 右ニ付、付 其由を以て誠實書記  
 官長 書差也。其末 叙勲上

申者 各々之由と云、又大礼者  
 技師ノ方ニ付、右ノ趣ニ付、右  
 旨、上申 陳先 書上ノ旨  
 旨、旨以て換文取附、標何支  
 大田 峰之助  
 此由 内閣書記官長 殿

(解説)

日本では本格的な議事堂建築が長年の懸案であった。太田峰三郎貴族院書記官長、林田亀太郎衆議院書記官長が大蔵省技師らと1908年に欧州を回った際に議事堂建築の調査も行い、一行はフランス議会で下院事務局のEugène Pierreに面会、また太田はベルギー議会で下院事務局のVital Pauwelsに面会した。懇切な教示を受けたことに対して、後日、太田峰三郎が柴田(家門)内閣書記官長に対して二人への勲章授与を求め、授与の手続きについて相談する書簡。

(出典)

簿冊標題「叙勲裁可書・明治四十二年・叙勲卷四・外国人二止」  
アジア歴史資料センター レファレンスコード A10112682300  
国立公文書館請求記号 勲 00249100 (所蔵館：国立公文書館)

## 2. 書簡の構成

### ■書簡の構成

頭語、本文、末文、結語、月日、差出人の氏名、宛名、添書などからなる(すべての構成要素が書簡中に存在するとは限らない)。この書簡での対応関係は次のとおりとなる。

頭語→拝啓

結語→敬具

月日→六月一日

差出人の氏名→太田峰三郎

宛名→柴田内閣書記官長

### ■別名、号から本名を探すには

この書簡では「太田峰三郎」と本名が記されているが、書簡には本名と異なる号などが署名されることがある。

\*近代人物研究会編『近代人物号筆名辞典』柏書房、1979。

明治以降に活躍した人物の号・別名・筆名の辞典。幕末・維新时期に活躍した人物の変名一覧を付す。

\*『号・別名辞典』近代・現代、日外アソシエーツ株式会社編・刊、2003。

### ■この書簡に使われている言い回し

頭語・結語	拝啓(頭語) 敬具(結語)
類出の漢字	候(そうろう) 之(の・これ) 御(おん・お) 致(いたす・いたし) など
言い回し	陳ハ のぶれば
	～ニ付 につき
	差出候間 さしいだしそうろうあいだ
	相成候様 あいなりそうろうよう
被成下度 なしくだされたく	

申上候	もうしあげそうろう		
候處	そうろうところ	處=処	
無之由	これなきよし		
有之候間	これありそうろうあいだ		
御含込	お(おん)ふくみまで	込=迄	

### ■政治家の書簡の読解に特化した電子教材

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「近現代政治史料の概要―書簡を中心に」

<http://training.ndl.go.jp/course/under.html?id=48> (日本語版)

<http://training.ndl.go.jp/course/under.html?id=48&lang=en> (英語版 講義内容は日本語)

国立国会図書館の遠隔研修教材。季武嘉也氏(国立国会図書館客員調査員、創価大学文学部教授)が自身の40年の研究をふまえ、政治家の書簡について専門的に解説した電子教材。前半ではなぜ書簡が史料として重要なのかや、書簡の種類について解説し、後半では伊藤博文が書いた書簡などを素材に、書簡を解説。解説のコツについて解説している。

\*[ウェブサイト] 今津敏晃「歴史史料はこう使う」(国立国会図書館「[電子展示会] 史料にみる日本の近代 開国から戦後政治までの軌跡」)

<http://www.ndl.go.jp/modern/guidance/how01.html> (日本語版)

<http://www.ndl.go.jp/modern/e/guidance/how01.html> (英語版)

1通の書簡(山梨勝之進書簡 斎藤実宛 1930年5月1日付)を例に役職を手掛かりとした作成年代の推定や新聞や日記との併用など、具体的な書簡の読み方を解説している。

### ■書簡による政治家間のコミュニケーションについて詳述した文献

\*佐々木隆「明治時代の政治的コミュニケーション」1~3『東京大学新聞研究所紀要』32(1984), 33(1985), 35(1986)

\*同『伊藤博文の情報戦略―藩閥政治家たちの攻防』中央公論新社, 1999.

## 3. 切手・葉書・消印の情報

### ■切手や葉書の料金

料金は、オリジナルの書簡の読解のための年代推定の根拠ともなる。

\*一般の封書の料金(有封)

明治4.3.1.(太陽暦 1871.4.20) 書状 100文(5匁まで以降、5匁ごとに加算)

明治4.12.5.(太陽暦 1872.1.14) 書状(距離で料金が変わるシステム)

25里以内 100文／50里以内 200文／100里以内 300文／200里以内 400文  
／200里超え 500文

明治5. 1. 23. (太陽暦 1872. 2. 28)「新貨」採用

1873. 4. 1.	基本料金 (2匁ごと) 市内 1銭、市外 2銭 不便地は増1銭		
1883. 1. 1.	2銭 (2匁)	1945. 4. 1.	10銭 (20g)
1899. 4. 1.	3銭 (4匁)	1946. 7. 25.	30銭 (20g)
1931. 8. 1.	3銭 (15g)	1947. 4. 1.	1円20銭 (20g)
1937. 4. 1.	4銭 (20g)	1948. 7. 10.	5円 (20g)
1942. 4. 1.	5銭 (20g)	1949. 5. 1.	8円 (20g)
1944. 4. 1.	7銭 (20g)		

＊普通葉書の料金

1873. 12. 1.	市内 半銭 (5厘) 市外 1銭 不便地は増1銭
1883. 1. 1.	1銭
1899. 4. 1.	1銭5厘
1937. 4. 1.	2銭
1944. 4. 1.	3銭
1945. 4. 1.	5銭
1946. 7. 25.	15銭
1947. 4. 1.	50銭
1948. 7. 10.	2円

■切手や消印による年代推定

切手・葉書の画像と種類を紹介する文献として、次の文献がある。『日本切手専門カタログ』は、愛好家向けで情報が細かい。

＊郵政省編『日本郵便切手・はがき図録—1871-1971』吉川弘文館, 1971.

＊『日本切手専門カタログ』日本郵趣協会郵趣サービス社 (戦前編あり)

■郵趣界の知見の近代の書簡整理への積極的な活用を提言した有用な論文

＊本井晴信「近世～近・現代「書状」の形態について」『新潟県立文書館研究紀要』3, 1996, pp.47-60.

＊本井晴信「近世～近現代「書状」と目録整理」『新潟県立文書館研究紀要』5, 1998, pp.53-75.

#### 4. くずし字の辞書・Web版講座

##### ■近代のくずし字

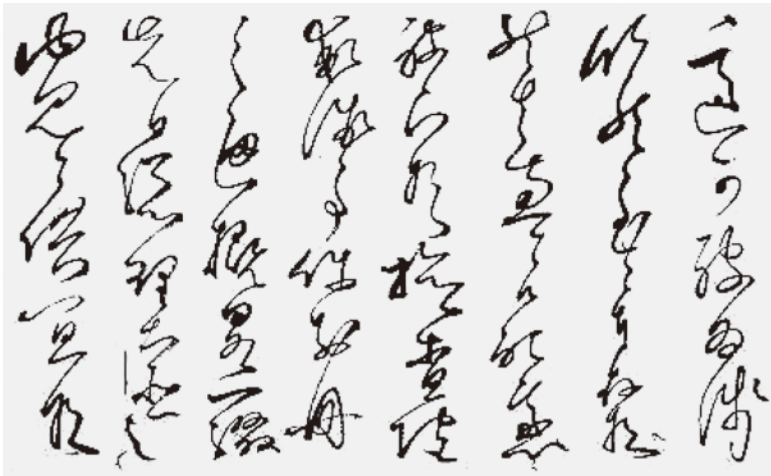
御家流<sup>4</sup>に近いものやくずしが激しいタイプがある。くずし字を避けて通ると読める史料に限られる。

(草書体を読める能力を身につけないと)史料があるのに利用出来ないという事態に陥る。また新しい史料をさがすのに臆病にならざるを得ないし、研究の課題の対象を自ら限定してしまうということにもなるであろう。どうしてその能力を身につけて行くか。これについては当面よいガイドブックもないし、教育のコースもない。独学出来たはないが効率が悪い。出来れば読める人についてある所までならうことが有効であろう。(伊藤隆「歴史研究と史料」『近代日本研究入門』p.268.)

##### ■くずし字が読めない場合

辞書を引く、部首などに分解するなどの方法がある。当然ながら、もともと知らない漢字や熟語はどんなにくずし字読解を頑張っても読めないことがある。

##### ■くずし方が激しい手紙の例(後藤象二郎の書簡より「品川弥二郎関係文書(その1)」54-1、国立国会図書館憲政資料室所蔵)



<sup>4</sup> 御家流とは、青蓮院門跡尊円入道親王の創始した書流。江戸時代に、幕府の公用文や江戸時代の庶民教育にも活用された。



■書簡によく使う字・用例を覚える

・漢文風の転例＝候文専用

有・無	有之 無之 無拋 無覺束 無御座 無相違 無恙
被	被下 被遊 被思 被成下 被遊御座 被為入 被為在 被為在御座
可	可申 可致 可仕 可然 可申上 可被下 可成 可被成下
不	不申 不致 不仕 不存 不殘 不悪 不斜 不淺 不申上 不被存 不被下 不過之 不得已(止) 不取敢 不拘 不相交
乍	乍憚 乍併 乍存 乍去 乍恐縮 乍略儀 乍延引 乍輕少 乍慮外 乍不候 乍御手数 乍失礼 乍他事
為	為念 為後日 為御祝 被為在
奉	奉存 奉願 奉願上 奉希 奉申上 奉賀 奉恭賀 奉謝 奉感謝 奉冀
兼	兼致 兼申上
如	如仰 如論 如件 如此(斯・是)
難	難有 難致
以	以手紙 以御陰
得	得拝顔 得貴意 不得要領
及	及御通知 及御相談 及御届 及御照会
蒙	蒙御厚情

・送り仮名などを漢字で書く

而	追而 謹而 隨而 降而 依而 兼而 就而者
者	候而者 陳者 候得者 然者
哉	候哉 否哉
半	候半
共	候得共
敷	宜敷 間敷(間舗、間布) 悪敷 六ヶ敷 八釜敷
度	致度 仕度 願度
之	之程 之至 之段 之处(所)

・形容詞・動詞・助動詞などを漢字で当て字にして書く

御機嫌克(能) 何々に預り 呉々 目出度 折柄 最早 仕舞 見舞 鳥渡 屹度 兎角 折角

・送り仮名を省く

・文と文を繋ぐ「一種専用の詞」句点の無い、長く続く文章となる

候間 候処 候付 候由 候趣 候砌 候際 候為 候次第  
候へば 候はば 候まま 候とも 候も

・専用の熟語

壮栄 大賀 消光 放念 休神 參堂 拜眉 海容 笑納

・添詞

差急 差出 差控 相願 相成 罷越 罷出 罷在

・過去形は用いず 昨日御出被下候「ひし」処 ひしは記されないが過去形の意となる

(出典)

前掲 季武嘉也氏「近现代政治史料の概要―書簡を中心に」(国立国会図書館)の教材より許可を得て抜粋掲載

(参考文献)

木枝増一『書簡文講話』日本放送出版協会, 1939, pp.43-47.

芳賀矢一・杉谷虎蔵編『書翰文講話及文範』上, 富山房, 1913, pp.163-165.

## ■文法・漢字やかなの表記

- ・候文（丁寧語の「候」（≒です、ます）を用いて書かれた文。書簡や公文書、願、届などに用いられたもの）。
  - ・変体仮名（普通に広く使用されるものと異なった字体のもの、日本では1900年の小学校令施行規則でひらがなが定められたが、特にこれと字源やくずし方を異にするかなが使われ続けた）。
  - ・漢字の新字⇔旧字 当⇔當、応⇔應、予⇔豫など
- \*近代の文語文で多用される「漢文訓読体」や、近代の語彙・文法にも詳しい文献  
古田島洋介『日本近代史を学ぶための文語文入門』吉川弘文館, 2013.

## ■くずし字の読解のために広く使われている辞書

- \*児玉幸多編『くずし字用例辞典』東京堂出版, 1993.
- \*児玉幸多編；高橋蒼石筆『くずし字解説辞典』毛筆版, 東京堂出版, 1999.
- \*[ウェブサイト] 東京大学史料編纂所「電子くずし字データベース」  
<http://r-jiten.nabunken.go.jp/>  
くずし字読解のための画期的な電子辞書。登録されている用例は近世以前が中心。

## ■自習用の文献

- 今日では、次のような自習も可能な資料集も出版されている。
- \*日本歴史学会編『演習古文書選』上, 下, 吉川弘文館, 1978-1979.  
代表的な史料（含くずし字）を計66件収録し、文書の写真に加えて、釈文や解説を付す。
  - \*岩壁義光・小林和幸・広瀬順皓編『史料で透視する近代日本 歴史資料読入門』ゆまに書房, 2004.
  - \*鈴木淳・西川誠・松沢裕作『史料を読み解く』4（幕末・維新の政治と社会）, 山川出版社, 2009.  
ペリー来航、戊辰戦争など具体的なテーマに即して文書の写真を掲載。読解のための釈文・読み下し・現代語訳・語句説明・解説・参考文献などが掲載され、資料を読む上でのふりがなも豊富に付されている。
  - \*歴史教育者協議会編『古文書入門 改訂新版』河出書房新社, 2000.  
第5章 近代文書（津田秀夫「近代文書の概説」、大日方純夫「明治期の村落文書」、色川大吉「民権運動と困民党関係記録」、大久保利謙「維新时期政治家の手紙」、増田家淳「生活の記録」、加藤修治「日露戦争兵士の手紙」）を収録。  
くずし字の読解というよりも、研究方法が中心。

## ■自習用の電子教材

以下は全体に近世文書を主体とするものが多いが、北海道立文書館の教材や東京都公文書館の教材は、明治以降の教材も多いため、近代文書の読解にも役立つ。

\*[ウェブサイト] 東京都公文書館「古文書解読チャレンジ講座」

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/0703kaidoku.htm>

「頻出する単語・難読文字一覧」などを含み、初心者にも分かりやすい。迷子になったドイツ公使館の犬を探す「明治の迷子犬」の広告など、楽しめる素材が選ばれている。

\*[ウェブサイト] 北海道立文書館「古文書解読自習プログラム」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/d/jishuupuroguramu.htm>

島義勇から十文字龍介宛書簡、御巡幸関係書簡のように近代の書簡・公文書中のくずし字なども含まれている。

\*[ウェブサイト] 佐賀県立図書館「ウェブサイト講座 くすくすくんのWEB版古文書入門」

<http://www.tosyo-saga.jp/kentosyo/web-komonjo/oshirase.html>

近世以前の文書が中心であるが、例えば第3章の「候文と返読文字」など近代でもよく使われる候文についても言及。

\*[ウェブサイト] 静岡県立中央図書館「くずし字解読講座 テキスト一覧（古文書解読）」

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/history/kuzushi.html>

近世以前の文書が中心であるが、「仮説を立てて読む」「筆が流れている部分を見分ける」など、くずし字解読に独特の発想法も紹介している。

\*[ウェブサイト] 群馬県立文書館「インターネット古文書講座」

<http://www.archives.pref.gunma.jp/moyooshi/inter-koza/inter-koza.htm>

群馬県立文書館編・刊『ぐんまの古文書』解説編上、下、『同』写真編上、下 1999. 掲載の古代から近世までの古文書を紹介している。

## Ⅳ 資料の背景の調査 (1) —政治家・官僚・軍人の役職の調査—

### 1. 一次史料の搜索・解読のための役職の調査

#### ■文書利用のための役職の調査

文書を探し、読解するためには、そのテーマに関係する役職や人名の推定が必要となる<sup>5</sup>。また、政治家の文書の読解に際してしばしば必要になるのが、役職の調査である。

(例1) 資料を記した人がどういった役職にあって、上司や同僚は誰か。

(例2) 日記の中に人名が出てきて、姓のみしか記されていないが、その人の職業を知りたい。

(例3) 人名のくずし字が読めないが、傍に役職が書いてあるのでその役職に就いていた人を知り解読の助けとしたい。

#### ■役職を調べる

詳細な伝記がある、一般的な辞典（『国史大辞典』）に立項されている、という場合は、それらの文献から多くの情報が取れる<sup>6</sup>。辞典類を集積したジャパン・ナレッジ（契約制データベース）や、日本人名情報索引（人文分野）データベース（<https://rnavi.ndl.go.jp/jinmei/>）など人名情報へのアクセスは便利になってきた。

しかし、政治家の個人文書の読解において、史料に登場する特定の人物のその時点での正確な役職を知りたい、というような場合、一般的な人名辞典や伝記では調べられないこともある。

#### ■ツールの使い分け

役職の調査にあたっては、ある一時期のものが載っているか、あるいはその人の一連の履歴が分かるものなのか、など様々な要素を考慮してツールを使い分ける。

①その人の特定の時期の役職が載っているもの

（例）職員録 官報、陸軍の停年名簿

②その人の略歴を総合的にまとめたもの

（例）履歴書、履歴を記した辞典、伝記に付されている年譜

<sup>5</sup> 特定の人物の人名調査の発想については次の文献も有用である。  
佐々木隆・梅沢ふみ子「ある人物を知るための方法」中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門』増補版 新装版。東京大学出版会、2012、pp.269-274。なお本稿Ⅳ部分の一部は「戦前の政治家の人名調査—文書読解の手がかりとして」（当館利用者サービス部部内研修、2015年2月18日）において報告した。

<sup>6</sup> 伝記の調査に有用なサイトとして、国立国会図書館「近現代日本政治関係人物文献目録」  
<http://rnavi.ndl.go.jp/seiji/index.php>

### ③読み物として記されたもの

(例) 物語風の伝記、歴史小説

### ④周りにいた人物を調べられるもの

(例) 職員録 軍隊の部隊別名簿 社員名簿

## 2. 役職調査の基本的なツール

### ■基本的な履歴の事典

特定の時期の役職及び一連の履歴が分かるツールが使いやすい。次のシリーズは公文書や遺族への聞き取り等まで含む丹念な調査により、両方の条件を備えており、これらから調べるのが王道といえる。

<政治家>

\* 秦郁彦編『日本近現代人物履歴事典』第2版, 東京大学出版会, 2013. (初版2002.)

<官僚>

\* 戦前期官僚制研究会編; 秦郁彦著『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会, 1981.

\* 秦郁彦編『日本官僚制総合事典 1868-2000』東京大学出版会, 2001.

<陸海軍の軍人>

\* 日本近代史料研究会編『日本陸海軍の制度・組織・人事』東京大学出版会, 1971.

\* 秦郁彦編『日本陸海軍総合事典』第2版, 東京大学出版会, 2005. (初版1991.)

上記の辞典に調べたい人物が載っていないこともあるため、以下第3節以降で、帝国議会の議員、戦前の官僚、軍人などの役職調査に便利なツールも紹介する。

## 3. 帝国議会の議員

### 3-1 貴族院議員、衆議院議員

■帝国議会の議員経験者全員の生没年月日、簡単な略歴が調べられる文献

\* 衆議院議員

『議会制度百年史 衆議院議員名鑑』衆議院・参議院, 1990.

\* 貴族院議員・参議院議員

『議会制度百年史 貴族院・参議院議員名鑑』衆議院・参議院, 1990.

(参考) 帝国議会の貴族院議員の構成: ①皇族男子、②公爵・侯爵、③伯爵・子爵・男爵(互選)、④勅選、⑤多額納税者

■議員に加え、当時の書記官（議院事務局の幹部官僚）の略歴が調べられる文献

\* 『衆議院要覧』衆議院事務局

\* 『貴族院要覧』貴族院事務局

不定期刊行、希望に近い発刊年月のものをNDL-OPAC等で検索する必要がある。

■様々な議員の人名事典

\* 芳賀登 [ほか]編『日本人物情報大系』21-30（憲政編 1-10）、別巻（憲政編被伝記者索引）、皓星社、2000。（都市情報社編『大東亜建設代議士政見大観』1943（復刻）など）

履歴だけでなく、政見が掲載されたものもある。

### 3-2 帝国議会会議録検索システムを議員の検索に使う

■インターネット上では、「帝国議会会議録検索システム」を予備的な調査に使うのも便利である。

\* [ウェブサイト] 国立国会図書館「帝国議会会議録検索システム」

<http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>

発言者指定でひらがなだけ（カタカナは不可）でも検索できる。



### 3-3 議員の会派

■会派調査の基本文献

\* 『議会制度百年史 院内会派編 衆議院の部』衆議院・参議院、1990。

\* 『議会制度百年史 院内会派編 貴族院・参議院の部』衆議院・参議院、1990。

\* 酒田正敏編『貴族院会派一覧』日本近代史料研究会、1974。

\* 『研究会所属貴族院議員録』尚友倶楽部、1978。

\* 『火曜会所属・公正会所属貴族院議員録』霞会館、1985。

\* 解説として、『貴族院の政治団体と会派』尚友倶楽部、1984。なども有用。

## 4. 戦前の官僚

### 4-1 基本的な考え方

- ・官僚の履歴を調べる上での一次資料は①『職員録』、②『官報』、③国立公文書館の所蔵資料（官僚の履歴や叙位叙勲に関する簿冊等）である。
- ・近年、戦前のこれらの資料の多くは、インターネット上で本文が見られるようになった。これにより検索上の不便がかなり解消された。
- ・この三種はそれぞれ特長がある。皆目分からないような場合は、官報で所属機関を推測し、詳細は職員録や国立公文書館の所蔵資料で調べ直す、など状況に応じて使い分けるのが効率的なように思われる。

### 4-2 職員録

#### ■職員録の変遷

職員録は、明治19（1886）年から今日まで続く官僚の官職・氏名を部署別に示した刊行名簿である。網羅性が高く、情報量が多い。当初は官報の附録として刊行された。戦前の職員録は、国立国会図書館デジタルコレクションで検索・閲覧することができる（職員録というタイトルを持つ名簿は大量にあるため、印刷局と職員録というキーワードを掛け合わせて検索すると良い）。

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「公務員（官吏）の人物情報を調べる（戦前編）」（リサーチ・ナビ）

[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-771.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-771.php)

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「日本-官庁職員（公務員）の名簿」（リサーチ・ナビ）

<http://rnavi.ndl.go.jp/politics/entry/JGOV-meibo.php>

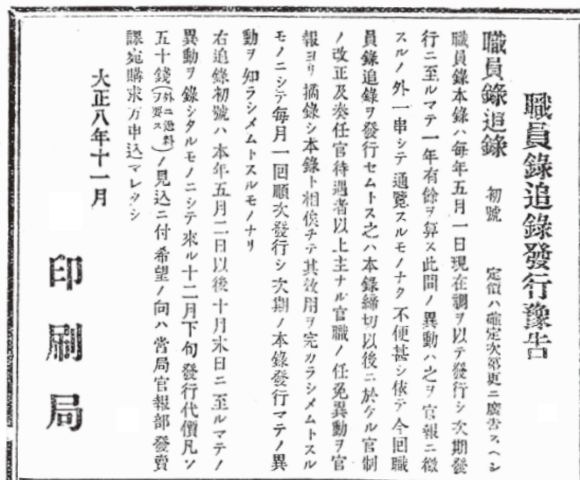
#### ■注意すべき点

- ・職員録は機関別・部署別の名簿である。国立国会図書館デジタルコレクション上では、資料の目次をテキスト化して検索させることを前提としており、『職員録』内の人名のキーワード検索はできない。
- ・関東大震災をきっかけに中央官庁と地方官庁で巻を分ける方式から、官僚のクラスで巻を分ける方式に変わった。在籍しているはずの人名が見つからない場合、同じ年の別の巻に収録されていないかも念のためチェックしたほうが確実である。
- ・年に1度または2度の定点観測のため、異動の「月日」は正確にわからない。
- ・1940年以降は収録対象が縮減された。



年代	内容
明治19 (1886) 年～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 甲は中央官庁 乙は地方官庁</li> <li>・ 陸海軍は明治20年版から甲に移行するなど微妙な移動あり</li> <li>・ 大正7 (1918) 年8月刊行版から編集の変更 (甲乙2冊が1冊組に)</li> </ul>
関東大震災以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大正12 (1923) 年10月関東大震災のため高等官 (奏任官以上) の名簿のみ、12月に追加刊行</li> <li>・ 大正13 (1924) 年10月 高等官・判任官を合体させて刊行</li> </ul>
大正14 (1925) 年～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月現在版：高等官 7月現在版：判任官以上</li> </ul>
昭和15 (1940) 年 ～昭和18 (1943) 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等官のみ</li> <li>・ 昭和15 (1940) 年は年2回 (2月／8月現在版), 昭和16 (1941) 年～昭和18 (1943) 年は年1回刊行</li> </ul>
昭和19 (1944) 年 ～昭和23 (1948) 年 (「各庁職員抄録」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抄録のみ</li> <li>・ 昭和19 (1944) 年, 昭和21 (1946) 年, 昭和22 (1947) 年, 昭和23 (1948) 年に「各庁職員抄録」刊行</li> </ul>

【図2】 追録の発行予告 刊行の頻度が低い問題を補うため、一時期追録が発行された。



(出典) 『官報』 2192号、1919年11月24日付

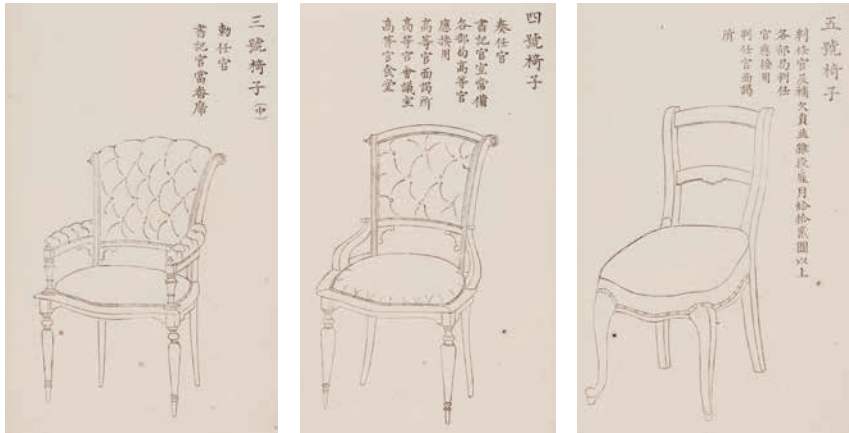
### ■戦前の官僚のランク

おおむね次のようなランクから成っていた。判任官より下の雇に関しては、職員録や官報等のツールでは分からないことが多い。

大臣級	高等官	親任官	勅任官 <small>ちくにとんかん</small>
次官・局長級		一等	
課長級以下		二等	奏任官 <small>そうにとんかん</small>
	三等～九等	判任官 <small>はんにとんかん</small>	
雇等		一等～四等	

(出典) 1886年頃以降の官僚の形式的分類 (『日本官僚制総合辞典』 pp.383より作成)

### 【図3】 明治期の宮内省における勅任官、奏任官、判任官の椅子の例



(出典) 「調度局関係冊子綴り」(「長崎省吾関係文書」87, 国立国会図書館憲政資料室所蔵)

#### ■内閣官報局・印刷局等の職員録刊行前(～1885)の官僚の場合

職員録刊行前の時期は、機関ごとに官員録等が発行されていたため個別に調べることになるが、資料のタイトルがまちまちである。

#### ■職員録、官員録の国会図書館の所蔵状況について知るには

- \* 国立国会図書館参考書誌部編『官員録・職員録目録 明治元年～昭和22年 国立国会図書館所蔵』国立国会図書館, 1980.
- \* [ウェブサイト] 国立国会図書館デジタルコレクション  
<http://dl.ndl.go.jp/> (日本語版)  
[http://dl.ndl.go.jp/?\\_lang=en](http://dl.ndl.go.jp/?_lang=en) (英語版)
- \* [ウェブサイト] 国立公文書館デジタルアーカイブ  
 1,045件の一部を内閣・総理府>第五類官員録・職員録で閲覧可。  
<https://www.digital.archives.go.jp/>





名前の四角囲みは筆者による。

国立国会図書館デジタルコレクションの中の『官報』7469号の目次に採られている人物（四角囲み）

- ・井上重則等（内閣）/p.537
- ・柳田國男等（内閣）/p.537
- ・小笠原西三郎（内務省）/p.537
- ・原田親光等（大藏省）/p.537
- ・宇佐川一正等（陸軍省）/p.537
- ・大岩太喜夫等（海軍省）/p.537

#### 4-4 国立公文書館デジタルアーカイブで検索する

##### ■国立公文書館所蔵資料の検索

国立公文書館デジタルアーカイブで人名のキーワード検索ができる。

\*[ウェブサイト] 国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/>（日本語版）

[https://www.digital.archives.go.jp/index\\_e.html](https://www.digital.archives.go.jp/index_e.html)（英語版）

##### ■国立公文書館にも、次のとおり、様々な履歴資料がある。

フルネームより名字のみで国立公文書館デジタルアーカイブを検索するほうが確実である。また、書類上の筆頭者のみが目録に採録され、検索を行ってヒットしなくても本文に掲載されているケースも多い。

公文書等の種類	所蔵年	資料内容			内 容	画像
		任免	叙勲	叙位		
諸官進退	明治4年 ～明治12年	○	○	○	各省府県等の奏任官 (少尉)以上の官吏	○
公文録の内(官吏進退)	明治12年 ～明治18年	○	○	○	各省府県等の奏任官 (少尉)以上の官吏	
官吏進退	明治19年 ～明治25年	○	○	○	各省府県等の奏任官 (少尉)以上の官吏	○
任免裁可書	明治26年 ～昭和29年	○			各省府県等の奏任官 (少尉)以上の官吏	△ (一部)
公文別録の内(親任官任免)	明治22年 ～昭和22年	○			内閣総理大臣・各省大臣等	○
内閣人事公文(任免)	昭和30年 ～昭和55年	○			各省大臣以下閣議了承人事	
叙勲裁可書	明治26年 ～昭和29年		○		外国人叙勲等も含む・ 昭和21年以降褒章も含む	
特別叙勲訓令	大正7年 ～昭和21年		○		桐花・菊花・頸飾・皇族叙勲等	
各種裁可書	明治27年 ～昭和22年		○		戦争時の功績による叙勲・従軍記章等を含む	

公文雑纂の内（賞勲局の部）	明治19年 ～昭和20年		○		褒章のみ	
内閣人事公文（叙勲）	昭和30年 ～平成4年		○		褒章も含む	
叙位裁可書	明治26年 ～昭和29年			○	贈位を含む	
内閣人事公文（叙位）	昭和30年 ～昭和63年			○		

（出典）[ウェブサイト] 国立公文書館「人物の経歴をしらべたいと思いますが、国立公文書館にはどのような資料がありますか？」

<http://www.archives.go.jp/guide/faq.html#Q20>

#### 4-5 組織や主要ポストの変遷

■政治家の個人文書の読解のために役職を調べる場合、「○○さんがどこのポストに就いていたか」を調べるだけでなく「このポストは以前誰が就いていたポストか」「この部署で担当していた仕事は、組織再編でどの部署に移ったのか」を調べることがある。組織や主要ポストの変遷一覧については、先に挙げた『日本官僚制総合辞典』のほかにも、様々なタイプの文献が既に刊行されている。

一例として次のような文献もある。

- \* 井尻常吉編『歴代顯官録』原書房, 1967. (朝陽会・1925刊の複製版)
- \* 朝倉治彦編『明治官制辞典』東京堂出版, 1969.
- \* 大蔵省記録局編『官令沿革表』国書刊行会, 1974. (1879-1885年刊版の複製合本)
- \* 内閣記録局編『明治職官沿革表』官廨部, 職官部, 国書刊行会, 1974. (複製版、現在は国立公文書館デジタルアーカイブで閲覧可)
- \* 『日本近現代史辞典』東洋経済新報社, 1978.
- \* 百瀬孝著・伊藤隆監修『事典昭和戦前期の日本—制度と実態』吉川弘文館, 1990. (制度や機構について詳細な解説を付す)
- \* 入手しやすく一覧性の高い文献  
日本史広辞典編集委員会編『日本史広辞典』山川出版社, 1997.  
吉川弘文館編集部編『近代史必携』吉川弘文館, 2007.など

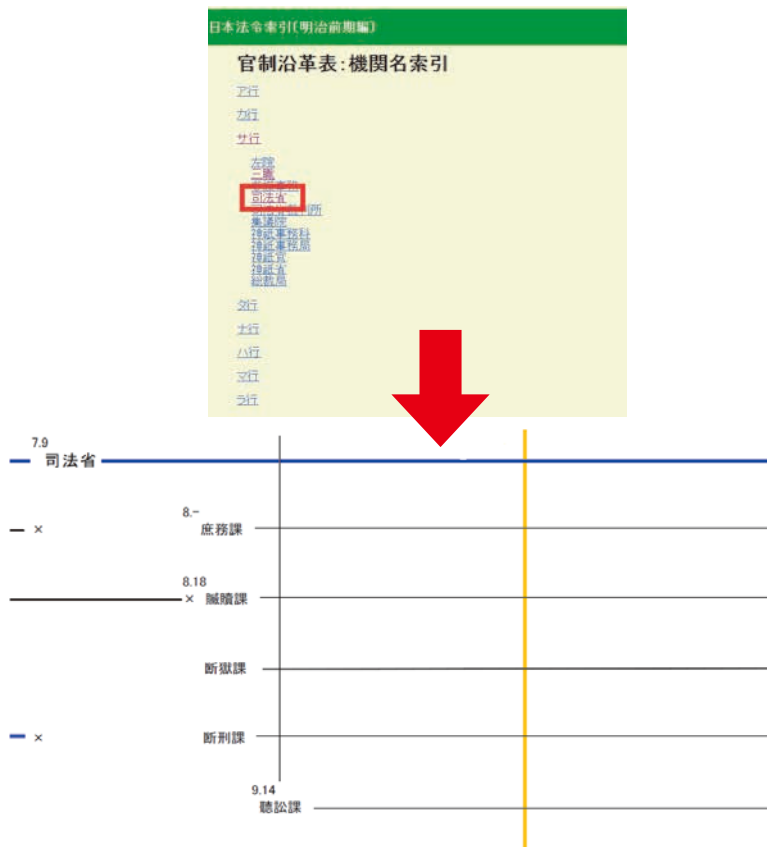
#### ■インターネット上の部署名の検索ツール

- \* [ウェブサイト] 「官制沿革表」(国立国会図書館「日本法令索引〔明治前期編〕」)

[http://dajokan.ndl.go.jp/SearchSys/enkaku\\_top.pl](http://dajokan.ndl.go.jp/SearchSys/enkaku_top.pl)

1867（慶応3）年～1886年頃までの部局課について、『法令全書』等から採録した機関あるいはその部局課の設置・廃止を一覧でき、容易に沿革が分かる。

【図6】官制沿革表（日本法令索引 明治前期編）の画面例  
「機関名索引」で司法省を選んだ場合の明治7（1874）年の司法省



\*[ウェブサイト] 国立公文書館「省庁組織変遷図」

<https://www.digital.archives.go.jp/hensen/>

1885年以降の部局レベルの組織の変遷図。明治以降の省庁及び各省庁の部局レベルでの組織の変遷を辿れる。目録の検索と連動しているところも便利。

#### 4-6 省別その他

##### ■大蔵省の職員

\*大蔵省百年史編集室編『大蔵省人名録』大蔵財務協会, 1973.



## ■外務省の職員

- \* 著名な外交官であれば、外務省外交史料館日本外交史辞典編纂委員会編『日本外交史辞典』山川出版社, 1992.
- \* 『外務省年鑑』(1907～)(判任官以上、1913～1926年版の復刻として外務大臣官房人事課編・著『外務省年鑑』クレス出版, 1999. 他に1908-1912年版の復刻あり)
- \* 外務省百年史編纂委員会編『外務省の百年』下巻, 原書房, 1969.

## ■司法官

『日本法曹界人物事典』10冊, ゆまに書房, 1995-1996.  
(帝国法曹大観編纂会編纂『帝国法曹大観』1915 他の復刻)

## ■内務省の職員

- \* [ウェブサイト] 〈新しい内務省史〉研究会「内務省職員録人事データベース」  
<http://www.littera.waseda.ac.jp/wever/naimujinji/goLogin.do>  
1887年度から1943年度。対象は奏任官以上。
- \* 『内務省人事総覧』日本図書センター, 1990. (3冊組)  
判任官も含めて、官員録や職員録から内務省関係者を抜き出して掲載している。
- \* 『内政関係者名簿』地方財務協会編・刊 (各年版)

## ■議会議務局の職員

書記官以上について全体像を見る場合は次の文献がまとまっており、分かりやすい。

- \* 『議会制度百年史 資料編』衆議院・参議院, 1990. (貴族院 pp.388-389. 衆議院 pp.396-398.)
- \* 『衆議院要覧』、『貴族院要覧』 書記官の略歴、職員一覧

## ■開拓使の職員の場合

- \* 北海道総務部行政資料室編『北海道開拓功労者関係資料集録』上, 下, 北海道, 1971-1972.
- \* 山田博司「開拓使の組織と職員 (一) 明治初年の各庁」『北海道立文書館研究紀要』5, 1990.3, pp.46-94.
- \* 同「開拓使の組織と職員 (2) 勅任官・奏任官の経歴」『北海道立文書館研究紀要』13, 1998.3, pp.40-88.
- \* 同「開拓使の組織と職員 (2) 勅任官・奏任官の経歴 (2)」『北海道立文書館研究紀要』14, 1999.3, pp.78-16.

\* 同「開拓使の組織と職員 (2) 勅任官・奏任官の経歴 (3)」『北海道立文書館研究紀要』15, 2000.3. pp.108-36.

#### ■台湾、朝鮮、関東州、樺太、南洋群島に関する人事

- \* 『旧植民地人事総覧』日本図書センター, 1997.
- \* 朝鮮総督府の職員  
「朝鮮総督府官報活用システム」(『朝鮮総督府官報』のデータベース)  
<http://gb.nl.go.kr>
- \* 台湾文献館、政治大学図書館「台湾総督府官報」  
<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>

#### ■その他

- \* 『人事興信録』(人事興信所, 1903) 他
- \* 『大衆人事録』(『現代人事調査録』帝国秘密探偵社, 1925の改題)
- \* 『日本紳士録』(交詢社, 1889) 他
- \* 『日本官界名鑑』(1936～各年版)
- \* 『出身学校別 現代紳士録』日本秘密探偵社, 1926.
- \* 勅奏任官の詳細な履歴  
我部政男・広瀬順皓編『国立公文書館所蔵勅奏任官履歴原書』柏書房, 1995.  
(現在は国立公文書館デジタルアーカイブでも閲覧可)
- \* 1880年頃に准奏任官以上となっていれば、宮内庁三の丸尚蔵館編『明治十二年明治天皇御下命「人物写真帖」収藏品目録 写真』宮内庁, 2015に名前がある。
- \* 文献案内として戦前期官僚制研究会編・秦郁彦著『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会, 1981の「主要参考文献解題」がより詳細である。

## 5. 軍人

職業軍人の場合、階級によって参照すべきツールが異なるため、どの階級まで最終的に昇進したのかが分かると調査が容易になる。官報や公式名簿にも異動は掲載されるが、調査に時間がかかるため、公式名簿以外の辞典類を使うほうが効率的である(大佐以下は、将官以上を掲載する辞典には掲載されていないため、相対的に調査が困難である)。

調べられる対象	書名	収録内容
大将全員と主要役職者 他を収録	秦郁彦編『日本陸海軍総合事典』 第2版, 東京大学出版会, 2005.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履歴に関する情報が充実。</li> <li>・ 生没年月日、出身地、近親者の軍人(家族関係)、学歴(出身中学、陸士・海兵の卒業期番号)、軍歴(少尉以降の進級や主要補職の年月)、退官後の重要職歴、著書、伝記など。「陸海軍主要職務の歴任者一覧」(pp.291-541.)は約1800のポストの変遷を就任年月とともに記載。「陸海軍主要学校卒業生一覧」(pp.545-674.)も収録。</li> </ul>
将官(少将以上)： 陸海軍	外山操編『陸海軍将官人事総覧』 陸軍篇・海軍篇, 芙蓉書房出版, 1981. 古川利昭編『帝国陸海軍将官同 相当官名簿—明治建軍から終戦ま で』古川利昭, 1992.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 兵科、出身地、学歴、卒業期番号、最終階級とその任官年月日、進級年月日(大佐以降)、駐在国、授爵など</li> <li>・ 生没年月日、出身地、学歴、学位、卒業期番号、進級年月日(大佐以降)、死亡区分、兵科(陸軍)など</li> </ul>
将官(少将以上)： 陸軍	福川秀樹編・著『日本陸軍将官辞典』芙蓉書房出版, 2001.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生没年月日、出身地、学歴、卒業期番号(陸士・陸大)、任官年月日、軍歴(少将以降の進級や主要補職の年月日)、最終階級、兵科、解説(軍事作戦への関わりなど)</li> </ul>
部隊の編成とそれに関わ る人名を調べる場合	外山操・森松俊夫編・著『帝国陸 軍編制総覧—近代日本軍事組織・ 人事資料総覧』第1-3巻, 芙蓉書房 出版, 1993. 坂本正器, 福川秀樹編著『日本海 軍編制事典』芙蓉書房出版, 2003.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 官衙、軍隊、学校、特務機関に分類したうえで、明治元年から昭和20年までの編制の変遷と併せて、重要機構ごとに整理</li> </ul>
尉官以上を収録(1944年 9月1日時点の停年名簿よ り作成した配置名鑑)	松原慶治編『終戦時帝国陸軍全 現役将校職務名鑑』戦誌刊行会, 1985.(索引 1986)	
陸軍の特別攻撃隊	陸軍航空碑奉賛会編『陸軍航空の 鎮魂』総集編, 陸軍航空碑奉賛会, 1993.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2部 全陸軍航空部隊略歴概要の一部として、「突入特別攻撃隊」pp.73-102.(名簿)、「待機特別攻撃隊」pp.103-147.(名簿)</li> <li>・ 出身部隊、階級、発信地、戦死年月日、戦死場所など</li> </ul>
海軍士官(少尉以上で将 官より下の場合も調べら れる)	海軍義済会編；戸高一成監修『日 本海軍士官総覧』柏書房, 2003.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出身地、学位、位階勲等、官等(階級)、叙位勲功、死没年月日と享年など</li> <li>・ 昭和17年7月1日調「海軍義済会員名簿」</li> </ul>
将官(少将以上)： 海軍	海軍歴史保存会編『日本海軍史』 第9-10巻, 海軍歴史保存会, 1995. 福川秀樹『日本海軍将官辞典』芙 蓉書房出版, 2000.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生没年月日、最終階級、出身地、学歴、軍歴、爵位、叙位叙勲、主要な予備役・後備役編入後の履歴など。特に軍歴に関する情報が充実。</li> <li>・ 出身地、生没年月日、出身校、最終階級、軍歴、解説(艦名等)、職種など</li> </ul>
海軍の戦闘機搭乗員	零戦搭乗員会編『海軍戦闘機隊』 原書房, 1987.	「海軍戦闘機搭乗員名簿」pp.1-128. 所属、戦死年月日、戦死場所など
特別攻撃隊	特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会編 『特別攻撃隊全史』特攻隊戦没者 慰霊平和祈念協会, 2008.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部隊別配列で、隊名、階級、出身地、出身区分(海軍兵学校、甲種飛行予科練習生など)、戦死年月日、戦死場所</li> </ul>
将官(少将以上)	[ウェブサイト] 国立国会図書館「近 現代日本政治関係人物文献目録」 <a href="https://rnavi.ndl.go.jp/seiji/">https://rnavi.ndl.go.jp/seiji/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治期以降、政治の分野で活躍した日本人に関する文献</li> </ul>

陸軍士官学校	『陸軍士官学校』 秋元書房, 1970.	・士官学校1-61期(含士官候補生)、幼年学校47-49期(士官学校62-64期に相当)、経理学校1-16期の氏名を、各期別、50音順で収録
	『陸軍士官学校名簿 陸士・航士・陸経・陸幼・軍官 第2巻 50期以降』 陸軍士官学校名簿編集会, 1982	・士官学校50-61期、航空士官学校50-60期、予科士官学校1-10期、経理学校1-7期、満州国軍官学校の卒業生及び在校生(終戦時)、幼年学校47-49期の名簿(氏名、肩書き)を各年別・50音順に収録
陸軍士官の任官・昇進	大江洋代「明治期陸軍士官の任官・昇進実態に関する基礎的研究(1) 陸士旧期卒業少尉任官者と同時期下士出身少尉任官者」(『東京大学日本史学研究室紀要』11, 2007.3 pp.245-295. 続編の「明治期陸軍士官の任官・昇進実態に関する基礎的研究(2) 陸士士官候補生歩兵科一期～五期任官者と同時期歩兵科下士および一年志願兵出身者」(同誌12, 2008.3. pp.73-106.)	・旧期(1-11期)卒業生(明治10年-明治22年卒、歩兵科に限定)の少尉任官者と、同時期の下士出身少尉任官者を収録 ・出身地、族籍、陸士卒業順位、進級状況(1904年まで)、職名、任地などをリスト形式で記載 ・続編では、陸士士官候補生歩兵科第1-5期生(明治24年-明治27年任官)、下士・一年志願兵から昇進した士官
海軍兵学校	『海軍兵学校出身者(生徒)名簿』改定版 海軍兵学校出身者(生徒)名簿作成委員会, 1987	・物故者には死亡年月日・死没後の新旧階級を記載。戦死、戦傷病死等の場合のみ、その場所と当時の所轄、職名など
戦前の日本陸軍の公式名簿	『陸軍現役将校同相当官実役停年名簿』 (将校同相当官服役停年名簿) 予備役・後備役	・出身県、実役停年(その階級の勤務年月日)、任官・進級日付、職名、位階勲等、族籍、爵位、年齢(または生年月日)、期番号など。階級別・任官順に配列
戦前の日本海軍の公式名簿	『海軍高等武官名簿』	・階級、職名、任官・進級年月日、留学、位階勲等、爵位、学位、年齢ほかを記載。出身科別、階級別に配列
	『現役海軍士官名簿』	

## 6. 手掛かりが得られない場合の調査法

以上のような方法を駆使しても、当該人物に関する手掛かりが得られない場合は、人名検索のツールに戻って調べ直すこともありうる。

■便利な調査ツール・調べ方案内(以下3件とも、国立国会図書館(リサーチ・ナビ))

\*[ウェブサイト] 「軍事関係の名簿の調べ方」

[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/post-515.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-515.php)

\*[ウェブサイト] 「日本人名情報索引(人文分野)データベース」

<https://rnavi.ndl.go.jp/jinmei/>

\*[ウェブサイト] 「人物情報(略歴・肖像等)」

<http://rnavi.ndl.go.jp/humanities/entry/post-11.php>

### ■留学していないか

- \*幕末・明治期に留学していれば、手塚晃, 国立教育会館編『幕末明治海外渡航者総覧』第1-3巻, 柏書房, 1992.で生没年等が分かる。
- \*[ウェブサイト] 東京大学総合図書館「明治期の留学生について知りたい」  
[http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/contents-e/faq\\_1.html](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/contents-e/faq_1.html)
- \*エス・ケイ・ケイ編『国際人事典』毎日コミュニケーションズ, 1991.は、国際的に活躍した人物を載せている。

### ■家柄が華族またはその親戚の場合

- \*霞会館諸家資料調査委員会編纂『昭和新修華族家系大成』上, 下, 霞会館, 1982, 1984.
- \*霞会館華族家系大成編輯委員会編纂『平成新修旧華族家系大成』上, 下, 霞会館, 1996.
- \*学習院大学史料館編『男爵家総覧』昭和会館, 2007. (男爵経験者の履歴)

### ■出身校から調べられないか

- \*原田登編『帝国大学出身録』帝国大学出身録編輯所, 1922.
- \*『帝国大学出身人名辞典』第1巻～第4巻, 日本図書センター, 2003.
  - ・『帝国大学出身名鑑』1～3/ 校友調査会 1932年刊の複製
  - ・帝国大学大観・学士名鑑/「帝国大学大観」帝国大学学友会1939年刊から「学士名鑑」を抜粋複製

### ■訃報から探す

新聞または地元の新聞に訃報が出ていないか。それに役職を記していないか。この発想で作られた文献の一例として、次のようなものがある。

- \*大植四郎編著『明治過去帳』新訂, 東京美術, 1988.
- \*稲村徹元・井門寛・丸山信編『大正過去帳』東京美術, 1973.
- \*紀田順一郎監修『追悼記事索引』日外アソシエーツ, 紀伊國屋書店(発売), 2006.

### ■その他

- \*[ウェブサイト] Google社「Google Books」  
<https://books.google.co.jp/>  
Google社が提供している書籍の全文検索サービス。キーワード検索が容易であり、何から調べ始めて良いのか分からない時にも威力を発揮する。
- \*[ウェブサイト] 国立公文書館「アジア歴史資料センター」

<http://www.jacar.go.jp/> (日本語版)

<http://www.jacar.go.jp/english/index.html> (英語版)

国の機関が所蔵公開している歴史資料をデータベース(デジタルアーカイブ)化してインターネット上で公開。

\* 著作や記事を書いていないか。それに役職を記していないか。

## V 資料の背景の調査 (2) —政治家の文書と立法過程—

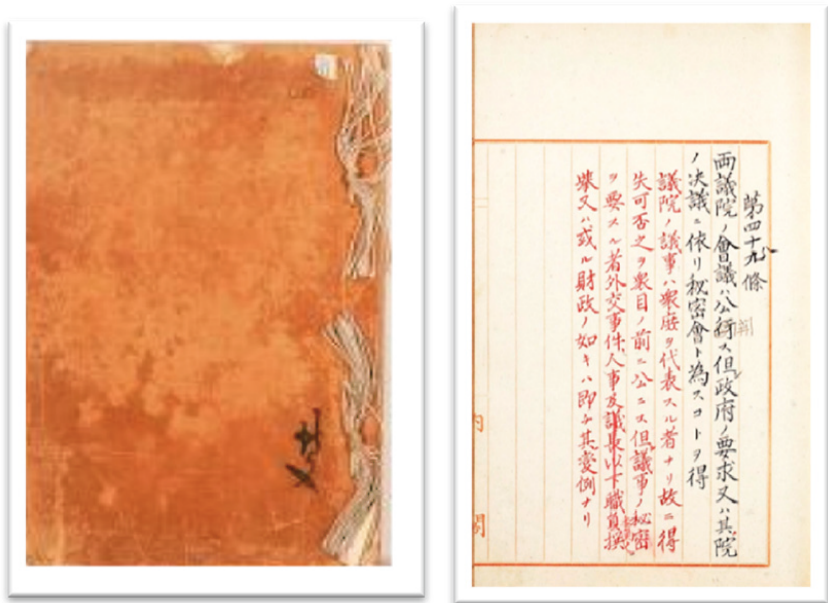
### 1. 政治家の文書と法令

#### ■政治家の個人文書の中の法令関係資料

次の資料は、伊藤博文旧蔵の大日本帝国憲法の草案(1888年)である。表紙には「博文」の署名があり、伊藤はこの原案を枢密院に持参の上、鉛筆で修正部分を書き入れたといわれている。私文書には、公文書に残りづらい立法過程の様々な段階の資料が含まれ、時に法令本文や公文書と重ね合わせて分析する必要が出てくることがある。

#### 【図7】〔大日本帝国憲法(浄写三月案)〕〔1888年3月〕

〔伊藤博文関係文書(その1)〕書類の部233 国立国会図書館憲政資料室所蔵



## 2. 実際の目録から—『井上馨関係文書目録』より—

### ■「井上馨関係文書」の目録

一例として、黒田内閣農商務相、第2次伊藤内閣内相、第3次伊藤内閣蔵相等を歴任し、元老として重きをなした井上馨が旧蔵していた文書の目録を見てみたい。

『井上馨関係文書目録』（憲政資料目録第10）国立国会図書館編刊、1975（662番の資料）

- 1 刑屍取計<sup>通達</sup> 司法省諸省宛 明治四年一〇月一〇日 墨書 一綴
- 2 男女永年季奉公之儀二付<sup>伺</sup> 司法省 正院宛 明治五年六月二三日 墨書 一綴  
(付) 奉公人年定期御<sup>布告</sup>案
- 3 人身売買禁制<sup>布告</sup>発令願 大蔵大輔井上馨 正院宛 明治五年八月二日 墨書 大蔵省罫紙 一綴
- 4 大木司法卿ノ人事彈議書 海江田信義 井上馨宛 明治一六年四月一〇日 墨書 一綴
- 5 刑法中改正加除ノ儀意見書 參議井上馨 明治一六年一〇月一二日 墨書 外務省罫紙 一綴
- 6 会計<sup>法</sup>草案〔明治二二年カ〕 活版 一冊
- 7 地籍<sup>条例</sup>案 明治二二年施行予定 活版 一冊
- 8 保安<sup>条例</sup>廃止案ニ対スル意見書〔明治二五年カ〕 墨書・菟蕪版 一綴  
(付) 保安<sup>条例</sup>要項・東京府下ニ於ケル保安条例執行度数及退去人員
- 9 保安<sup>条例</sup>廃止案ニ対スル意見〔都筑馨六カ〕〔明治二五年カ〕 墨書 内務省罫紙 一綴  
(注) 前号8ノ原文
- 10 予戒<sup>令</sup>廃止案ニ対スル意見〔明治二五年〕 墨書・菟蕪版 一綴  
意見案・壯士取締り意見 明治二二年八月一三日・予戒令施行度数人員 明治二五年一二月二日調
- 11 集会及結社<sup>法</sup>〔案〕〔明治二五年一二月カ〕 墨書 法制局罫紙 一綴
- 12 政談集会及政社法案ニ対スル意見〔都筑馨六カ〕〔明治二六年カ〕 墨書 内務省罫紙 一綴
- 13 新聞紙<sup>法</sup>案参照 新聞雜誌調 明治二五年一〇月調 墨書 一綴  
(付) 政談演説結社数及解散禁止一覧表 明治一三年一明治二五年
- 14 新聞紙<sup>法</sup>〔案〕〔明治二五年一二月〕 墨書 法制局罫紙 一綴
- 15 修正新聞紙<sup>法</sup>案〔明治二五年一二月〕 菟蕪版 一綴
- 16 出版<sup>法</sup>〔案〕〔明治二六年〕 墨書 法制局罫紙 一綴
- 17 出版<sup>法</sup>案 明治二六年七月一日施行予定 墨書 内務省罫紙 一綴



## ■目録の中の法令関係資料

「井上馨関係文書」のごく限られた部分を見るだけでも、政治家の個人文書における法令関係資料に様々なタイプがあることが分かる。

### ①種類

法、条例、令、布告、達

(参考) 公文式(明治19年勅令第1号)以前にも、多くの法形式(布告、布達、達、告示等)があり、時期により変遷がある。題名がなく例えば「…候条、此旨相達可相心得候事」等と結びの部分で法形式を区別するものがある。公文式以降、詔勅、法律、勅令、閣令、省令等に法令形式が再編された。

### ②段階の差

伺、廃止案への意見、発令の願書 草案

### ③印刷の方法

墨書 蒟蒻版 活版

(参考) 蒟蒻版とは、寒天のようなゼラチン質のものを使った平版印刷の一種で、メチルバイオレット等の紫色で刷られる。一般的に数部から数十部が作成される場合が多い。活版は、組活字による凸版印刷の一種で、かなり大部数を刷ることもできる。一概には言えないが、一般に蒟蒻版や活版であれば、複数の人のために刷られたり、配付されたりしたと推定できるため、法令についても資料の性格を推定する手掛かりになる。

### ④罫紙の違い

大蔵省 内務省 外務省 法制局

### ⑤井上馨の立場

高級官僚・政治家 法令の案や情報が集まってくる。

## 3 法令の本文を探す

■「井上馨関係文書」[662-1 刑屍取計通達 司法省諸省宛 明治四年一〇月一〇日]・例えば、目録冒頭の「662-1 刑屍取計通達 司法省諸省宛」の資料について、「これが実際に出されたか」「出されたとすればこの記録と実際に出された法令の内容に差はあるか」というのが史料の位置づけを探る上で最初の着眼点となろう。

## ■法令の本文を探す際に便利なサイト

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「日本法令索引(明治前期編)」

<http://dajokan.ndl.go.jp/SearchSys/>

慶応3(1867)年10月大政奉還から明治19(1886)年2月公文式施行までの法令

\*[ウェブサイト] 国立国会図書館「日本法令索引」

<http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/>

明治19（1886）年2月公文式施行以降～現在までの法令

- ・法令名称のキーワードでも検索ができる。
- ・上記の二つのサイトで検索できる時期には違いがある。これは日本の法形式のシステムを大きく変えた公文式（1886年2月施行）の前後で分かれている。
- ・日本法令索引において、戦前の法令の検索には「制定法令」を用いる。（「現行法令」では失効法令が省かれてヒットしてしまう）。

■日本法令索引（明治前期編）のデータベース

- ・662-1番の資料は明治4（1871）年の発令のため、明治前期編のデータベースで探すことになる。

- ①法令名に「刑屍取計」「刑屍」等のキーワードで検索してみる→ヒットしない。
- ②発令年月日を明治4年10月10日として検索する→「死刑ノ遺屍下付請願ノ場所ヲ定ム 明治4年10月10日 司法省」としてヒットした。おそらくこれに該当→リンクから『法令全書』の本文を辿ることができる。

【図8】 日本法令索引（明治前期編）の検索画面

■法令名でヒットしない場合

一般に、政治家の文書の目録にある法令らしきものが、法令の関係資料であるにもかかわらず、日本法令索引の「法令名」でヒットしないことはしばしば

ある。

その理由としては、

- ①公文書以前の法令は、題名を欠いているものが多い（日本法令索引では法令全書等からの件名で採録しているものがある）
- ②政治家の文書は、様々な過程や原案のものも含まれるので、目録に登場する名称が実際に制定される法令名と異なることがある
- ③通知文などが目録に取られていることがある（この「井上馨関係文書」662-1の資料は、府県に対して出されたもので、国の機関にも参考までに通知された。冒頭にこの参考通知文が記され、目録に採録）などである。

- ・タイトルでヒットしない場合も、法令らしいと推定できる場合は、発令機関や発令年月日等で検索を試みると良い。あるいはキーワードを広く想定して検索するか、年が分かっていたらその年の『法令全書』を確認することもできる。
- ・政治家の文書には、法令の本文というよりもその前後の過程の資料も含まれる。従って、政治家の文書を立法過程の解明という点から使う際には、法令の本文だけではなく、立法過程に関連する公文書や公的な出版物との対照を要することがある。

■日本語・英語も交えてシソーラスとしても使え、立法過程にもかかわりのある公文書・官報の検索サイト

\*[ウェブサイト] 国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/>（日本語版）

[https://www.digital.archives.go.jp/index\\_e.html](https://www.digital.archives.go.jp/index_e.html)（英語版）

\*[ウェブサイト] アジア歴史資料センター

<http://www.jacar.go.jp/>（日本語版）

<http://www.jacar.go.jp/english/index.html>（英語版）

\*[ウェブサイト] 名古屋大学法情報研究センター「英文官報等の検索」

<http://jali.law.nagoya-u.ac.jp/project/jagasette>

1946年4月4日～1952年4月28日の官報を収録。英文官報については国立国会図書館デジタルコレクションにも収録されている。

#### 4. 帝国議会の資料

政治家の個人文書の中には、議員に配付される法律案、議事速記録、質問、演説原稿などの議会の関係資料が含まれていることがある。

## ■帝国議会開設（1890年11月）以降の法律案等の審議過程

「帝国議会議録検索システム」により、議事速記録を閲覧することができる。

- \*[ウェブサイト] 国立国会図書館「帝国議会議録検索システム」（1890年11月～）

<http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>

（参考）帝国議会の委員会は、特別委員会と常任委員会（予算、請願、懲罰等）からなり、法律案の審議は一般に、議案の名称を冠した特別委員会に付託された。ただし、帝国議会の委員会には速記録が作成されない回もあるので注意が必要である。

## ■特定の法律案の検索

- \*[ウェブサイト] 国立国会図書館「日本法令索引」法律案検索

[http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/frame/houritsuan\\_top.jsp](http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/frame/houritsuan_top.jsp)

- \*『衆議院議案件名録 自第一回議會至第六十回議會』衆議院事務局, 1932.
- \*『議會制度七十年史 帝国議会議案件名録』衆議院・参議院, 1961.
- \*帝国議会の議會審議では、法律案だけではなく、予算案、文書による質問・答弁、建議、請願など様々な審議事項があり、細かい問題は建議・請願・質問などにしか現れないことがある。

## おわりに

政治家の個人文書には、書簡、日記、意見書、立法過程の背景資料、小冊子など様々な資料が含まれ、それらの活用するためには、個々の主題に関わる専門的な情報とは別に、一定の予備知識が必要となる。予備調査に費やす時間や負担を軽減すべく、本稿では資料の探索・読解・背景調査の入り口の一端を紹介した。

政治家とは情報や記録が集まる職業であり、政治家の個人文書は、多様な主題をその背面とともに解明する意味で、可能性を秘めている。調査と読解のための方法がより広く共有されれば、活用の可能性はより広く開けるのかもしれない。本稿での予備知識の例示がその手掛かりの一つになれば幸いである。

（あしな ふみ 利用者サービス部政治史料課）